

今日の力

翻訳 村越克子
中野雄貴
編集 岩田欣三

御茶の水キリストの教会

ジェフ・ケアリー
テキサス州 ラボック

7月17日(火)

も　っ　と　自　分　を　開　く

聖書朗読　ルカ　19：1～10

イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。

ルカ　19：5

あなたが帰宅したら、隣に住んでいる人がヒステリックに叫んでいたとします。あなたは車から降りて、何事かと思って見に行きます。お隣さんは、子どもがいなくなったと言いました。そこで、あなたは「まあ、それは大変ですね。お子さんが見つかるといいですね」と言って、静かに家に戻って行きます。あなたは、こういう人ですか？

イエス様は、エルサレムに向かわれる途中でエリコの町を通られました。予期せぬ機会がイエス様の前に展開しました。イエス様は、イエス様を見るために木の上に登っている人に目を留められました。イエス様はエルサレムに向かって歩き続けることもできましたし、「予定を変更することはできませんし、急いでいます」とおっしゃることもできました。しかし、主は、失われた者を救う機会に出会われて、彼のために予定を変更されました。

『機会のあるたびに、すべての人に対して・・・善を行ないましょう。』（ガラテヤ6：10）。私たちの心は機会に開かれていますか？ あなたの生活は忙しすぎて調整できなかったり、せっかくの機会を活かすために変更することができませんか？人を助けるということにおいて、柔軟であることの大切さをイエス様は私たちに示されています。機会はいつも都合よく訪れるというわけではありません。それでも助けますか？ あなたはそういう人ですか？

讃美歌　333

祈　り　親愛なる主よ。あなたを必要としている人を助ける機会を素通りするほど、自分を忙しくしませんように。あなたのように、まわりの人たちに、自分を開く知恵と強さを与えてください。

あなたの聖なる御名においてお祈りします。アーメン。

ジョシュ・バーネット

テネシー州　ナッシュビル

7月18日(水)

イエス様はどこにいらっしゃいますか？

聖書朗読　ルカ　22：14～27

しかしわたしは、あなたがたのうちにあって給仕する者のようにしています。

ルカ　22：27

フォーマルな晩餐会の様子を思い描いてみてください。上席には立場の上の人たちが席をとり、着飾った多くの来賓が、自分の席を見つけて着席しています。彼らの笑顔と幸せそうなおしゃべりは、ここに招かれた喜びと名誉を物語っています。

一方、広い宴会場を見渡すと、隅っこや陰になっている場所に立っている人がいます。その人たちが着ている制服によって彼らが何者であるか、すぐにわかります。立って待っているスタッフは、晩餐会の給仕をするための合図を注意深く待っているのです。お盆を手にして、晩餐会の主人から合図があれば、すぐに動き出します。

クリスタルの上に乗った金属のチリンチリンという音が、会場に集まった人たちを静かにさせます。主人からの開宴の言葉のあと、給仕がサッと行動を起こします。テーブルからテーブルへ、ゲストからゲストへと、素早くテキパキと移動しますが、テーブルに座っている人たちは、彼らの存在に気づくことさえほとんどありません。

さて、「この絵の中で、イエス様はどこにいらっしゃるのか？」と自問してみてください。今日の聖句が、この問いかけに答えてくれます。その答えは、私たちの世界を逆転させます。ご自身を「給仕する者」と宣言されたことに関連して、イエス様は、王、君主、権威を持つ者について語られています。これらの言葉は完全に、そして最終的には私たちの主を言いあらわしているにもかかわらず、主は給仕をする者の場所をとられると言われます。つまり端っこの方に立っている者になられるということです。それは、普通に考えると、王の王、主の主に期待することとは、まったく違います。さて、自分ならどの場所に席をとるか？　どの場所に立つか？　自問してみてください。

讃美歌　121

祈　り　御在天のお父様。あなたがお選びになられた謙虚さによって、私たちは鍛錬され、へりくだることを学びます。あなたがお命じになられた場所を忘れてしまったとき、どうぞ赦してください。

イエス様の御名において。アーメン。

クリス・フィリツェル

テキサス州　グランベリー

7月19日（木）

来 て , 見 て く だ さ い

聖書朗読 ヨハネ 1 : 35 ~ 42

「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」
ヨハネ 4 : 29

家族4人が廊下に立っていました。彼らは少し道に迷って、困っているようでした。私たちの教会を初めて訪れた人たちで、聖書クラスをしいてる場所を私に聞きました。私は聖書クラスの場所を教えるのではなく、「私について来てください」と言いました。言葉で伝えるよりも、一緒に行った方が簡単な場合もあります。

聖書クラスまで彼らを案内しながら、私は、ほかにもいいことをいくつか発見しました。行き方を伝えるよりも一緒に行ったほうが仲良くなれましたし、途中で会った教会のメンバーを紹介することもできました。彼らには自分たちが歓迎されていると思ってもらえたようですし、私には新しい友人ができました。

今日の聖句では、ヨハネのふたりの弟子がイエス様にお会いして、イエス様とお話をしました。そして、イエス様のことをもっと知りたいと思い、イエス様について行きました。彼らは「今どこにお泊りですか」とイエス様にお聞きしました。イエス様はお泊りの場所の方角を教えるのではなく、「来なさい。そうすればわかります」と彼らを招きました。それで、彼らはついて行き、イエス様とともにその日を過ごしました。そして、同じように「来て、見て」と言って、ほかの者をイエス様のもとに連れて来ました。その短い旅が、イエス様との生涯にわたる、そして自分の人生を変える主との関係へと発展しました。

ですから、人生の方向性を探している人を見かけたら、どっちの方向に行ったらいいかを伝える代わりに、自分と一緒に来るように招いて、彼らを私たちの救い主に紹介しましょう。ちょっと一緒について行ったことが、主にお会いすることになるとは、誰もわからないのですから。

讃美歌 502

祈 り 主よ。人生の方向性を求めている人たちと一緒に行って、彼らを癒し、変えることができるお方を「来て、見てください」と、彼らを招くことができますように助けてください。

イエス様を通して祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランベリー

7月20日（金）

眼 を 開 い て

聖書朗読 ヨハネ 3 : 1 ~ 8

・・・主は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。・・・今、もしあなたがたが、まことに私の声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなた方はすべての国々の民の中にあつて、わたしの宝となる。・・・あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」
出エジプト 19 : 3 ~ 6

アブラハムの子孫のように、今回の聖書朗読箇所が登場するニコデモも神の国を語るイエス・キリストの力強さに魅了されてイエスを信じるようになったに違いありません。しかし出エジプト記を見てみると、契約を信じるイスラエル人に生まれることのみがこの神の国に入れる条件と書いてあります。神の国に入るためにはただこの条件しかなかったのです。

イエスがニコデモに語ったことのうち最も大きな意義を持つのは、生まれに拠らない救いにより、神の国に入れるようになったということです。どこで生まれたかではなく、どこに行くのかによる救いを得たのです。私たちはバプテスマにより生まれ変わり、新たな人生を送ることが許されたのです。つまり、肉体の生まれではなく魂の生まれによる救いとなったということです。これこそがニコデモにイエス・キリストが伝えたことなのです。

今でも私たちはつい、信仰や魂よりもその人のステータスや成績に目が行ってしまいます。しかしこのようなものは私たちの生きる世界の中でさえこころ価値が動いてしまい、神の国では何の意味も持たないのです。もし本気で神の国が見たいのなら、私たちは信仰を通じて私たちの世界を見ることを学ばなくてはなりません。

讃美歌 第二編 167

祈 り 天にいますお父様。私たちはつい、この世界の名誉や財産に目が奪われてしまいます。どうか真実の眼を私たちが得れるようにお導きください。どうかこの真実の眼であなたの王国を見ることができるよう。アーメン。

ブルース・グリーン
アラバママ州・オペリカ

7月21日（土）

贈 り 物

聖書朗読 ヨハネ 6：30～40

イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」 ヨハネ 6：32～33

贈り物は愛情の表れです。私が2歳の孫に贈り物をしたときは、彼女の白い寝間着と青いリボンとレースのついたベビー服を作るのに多くの時間を費やしました。一針一針に私の愛が込められています。ボタンの一つ一つに至るまで慈愛の心で取り付けました。そしてこれを孫に上げたとき、うれしさと喜びで孫は部屋中を駆け回り、鏡に映る服を着た自分の姿に大喜びしました。それを見てなんと満たされたことでしょう。彼女は私の贈り物を通して私の愛を受け入れてくれたのです。

私たちは神様から贈り物をいただいています。『しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。』（ローマ 5：8）。神様は私たちに永遠の命を与えてくださいました。なんてすばらしいことでしょう！神様が与えてくださったこの恵みに勝るものなど存在しません。神様の望んでいるらっしゃること、つまり神様を喜ばせることとは、いつの日か私たち神様の子どもが神様の下へ帰ることなのです。あなたは喜びをもってこの贈り物を受け入れますか？

讃美歌 90

祈 り 天にいますお父様。あなたは私たちに驚くほどの恵みを与えてくださいます。この恵みに感謝しつつ日々を送れますように。あなたの恵みを私たちが受け入れ、またあなたを愛することができますように。

イエス・キリストのお名前を通してお祈りします。アーメン。

コニー・シンプキング・トーマス
ケンタッキー州 マウント・ワシントン

7月22日（日）

善 く 育 つ

聖書朗読 ヨハネ 7：1～5

正しい者の結ぶ実はいのちの木である。知恵のある者は人の心をとらえる。

箴言 11：30

ペッパーと言われるとあなたはどんなものをイメージしますか。大きなスーパーの青果コーナーに行けば緑、赤、黄ね橙など様々な色のペッパーを見ることができます。先日、私は蒸し料理を作ろうとピーマンを買いました。くしゃみを誘ってくる唐辛子や胡椒も様々な刺激で私たちを楽しませてくれます。

同じ様にこの世界には様々な木々があります。ある木は一年中葉を青々とさせていますし、また別の木は冬になると葉を落とします。果物を実らせて私たちを楽しませてくれる木もあるでしょう。私は昔、何年か庭でカシューナッツの木を育てていたことがあります。多くの葉をつける植物だったので、その木の下は日当たりが悪く、芝生が育ちませんでしたし、落ちた葉を集めるのも一苦勞でした。またカシューナッツの木はウルシ科ですので触るとかぶれてしまいます。というわけでこの木が別の場所へ移されるとき私の家族は大変喜んでいました。今ではレモンとリンゴの木を育てています。

木々の中では聖書で言及されている物もあります。いのちの木、善悪の知識の木、さらにはザアカイがイエスを一目見てその注意を引こうと登った木などです。

果物の木が育ち実を結ぶように、クリスチャンも神様の為に実を結ぶように育てられます。あなたの信仰の木は育っていますか？

讃美歌 321

祈 り お父様。私たちを善く育て、あなたの国へ導いてください。アーメン。

カーサ・ウインザー
カリフォルニア州 サンディエゴ